

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05654

研究課題名(和文) アジアの後発開発途上国における学校保健モデル事業のインパクト評価

研究課題名(英文) The Impact of School Health Model Project in Asia's Least Developed Countries

研究代表者

國土 将平 (Kokudo, Shohei)

神戸大学・人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：10241803

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：ネパール国とラオス国において、学校保健制度に関わる教育・社会システムを検証した結果、学校保健活動として子どもの活動参加を促すチャイルド・ヘルス・クラブの活動を取り入れることが有効であることが明らかとなった。両国において、プロジェクトスクール8校において、2017年～2019年の2年間にわたりチャイルドクラブを組織・運営した。子どもが中心的に活動する学校保健活動が、トイレの清潔化や校内のゴミの減少ならびにゴミ分別とリサイクルといった学校環境の改善、歯磨きや手洗い習慣、トイレを衛生的に利用する態度育成、人間関係の構築など子どもの意識・行動の変容を促すことが可能であり、その有効性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学校保健は学校教育の基盤を形成する一つの重要な要因である。発展途上国における学校保健は援助に支えられている場合が多いが、本研究では子どもクラブを活用することにより、自発的、継続的な活動が可能となり、持続的発展可能性を示すことができた。特に、発展途上国において、学校保健活動により学習環境が改善し、また衛生環境の改善により、疾病の予防や学校出席率向上など向上することにより、教育の質を高めることが可能であり、学術的にも社会的にも高い意義を持っている。

研究成果の概要(英文)：As a result of examining educational and social systems related to the school health system in Nepal and Laos, it became clear that it should be effective to incorporate the activities of the Child Club that encourages the participation of children as school health activities. Eight project schools have organized and operated child health clubs during 2 years, from 2017 to 2019 in both countries. The school health activities centered on children was able to read improvement of the school environment such as clean toilets, reduction of garbage and sorting and recycling of garbage, and to promote changes in children's consciousness and behavior such as brushing teeth, washing hands, developing a hygienic attitude, and establish new human-relationship toward using the toilet in the school.

研究分野：国際学校保健

キーワード：学校保健 チャイルドクラブ ソーシャルキャピタル ラオス ネパール

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2000年ダカールにおいて開催された世界教育フォーラムにおいて、FRESH (Focusing Resources on Effective School Health) フレームワークを策定し世界各国、特に発展途上国を中心として、国家規模で学校保健の方策が進んでおり、学校保健の必要性が高いと言える。その一方で、FRESHの行動枠組みは、学校給食のような膨大な予算を必要とするプログラムも含まれており、多くの発展途上国は国際的な援助団体の援助を必要としている。加えて、これらの活動がどのような効果をもたらしているかといったエビデンスに乏しいことにも直面している。

我々の研究チームでは、タイ国ならびにミャンマー国において学校保健活動を展開してきた。これらのプロジェクト成功の要因として当該地域のニーズに応じた、オーソドックスでも効果が早期に得られるコンテンツを準備することである。さらに、それぞれの地域のソーシャルキャピタルを調査しつつ、現行の教育システムに負担の少ないコンテンツに絞り込むことで、その後の学校保健活動のサステナビリティに直結することになる。残念ながら、ネパールやラオスにおいては、自立性、持続性を持った学校保健システムの導入には至っていない。

2. 研究の目的

本研究では、以下を達成することを研究の目的とした。

- ・ ラオス・ネパールにおける学校保健制度に関わる教育・社会システムを検証し、ソーシャルキャピタルを明らかにする。
- ・ 両国で優先する学校保健コンテンツを調査して、持続的制度を構築するために、現在で活用可能なソーシャルキャピタルと欠落しているソーシャルキャピタルとを精査する。
- ・ 児童生徒の継続的に実施可能な学校保健モデルを開発しモデル学校で試行する。
- ・ 研究成果を当該国の教育・保健政策にフィードバックする。

3. 研究の方法

初年度(2016年度)は、ラオス・ネパール両国における教育省、教員養成大学、小・中等学校ならびに地域住民のインタビュー調査により現有するソーシャルキャピタルの評価し、当該地域のドナーを含めた現有する学校保健制度をレビューし、ソーシャルキャピタルに関する情報と必要とする健康保健情報を収集、必要とされる児童生徒の健康・保健関連情報を抽出した。また、ネパールではトリバン大学、ラオスではラオス国立大学と共同して、学校保健活動のプロジェクト校をそれぞれ四校、合計八校を選定した。

2017年から2019年にかけて、プロジェクト学校で2年間にわたる学校保健プログラムの実践を行った。プログラムの実践にあたり、初年度は、各学校に研究協力大学から定期的に、また本研究の分担者は1年間に3回、プロジェクト学校を訪問し、実践の指導、レビューを行い、実施状況についてSNSを使って共有した。プログラムの実践の前に、ベースライン調査、また1年終了後に中間調査、2年目の終了時に最終調査を実施した。

4. 研究成果

2016年度の小・中等学校ならびに地域住民のインタビュー調査により、ネパール国においては、児童生徒が中心となって活動するチャイルドクラブならびに教員、地域住民が一体となった学校運営委員会があり、社会的な組織基盤としてのソーシャルキャピタルが存在していることが明らかとなった。なお、それらを踏まえて、チャイルドクラブを中核とした学校保健プログラムの原案を考え、対象学校を4校選出した。ラオス国においては、子どもや保護者、教員が一体となった組織は存在せず、制度的ソーシャルキャピタルも不十分であることがあきらかとなった。また、児童の学校保健活動に関する委員会もしくはチャイルドクラブを組織することに関しては、児童の全員の参加に基づく課題直結型の学校保健活動プログラムを作成した。

1) 活動開始時点の状況

ベースライン調査の結果、プログラムの開始前では、学校保健活動について、飲料水や手洗い・歯磨きに関する知識については、UNICEFのWASHプログラムはよく知られており、学校の中にプロモーションに関する情報が掲示されており、ある程度の知識を得ていると考えられる。その一方で、ネパールでは水源の確保の困難性や利用できる総水量が十分ではないため手洗いやトイレに利用できる水が少ないなど、実施上の困難性を抱えており、実際の行動との関連性を確認する必要があることが明らかとなった。人間関係について、4-5年生では生徒を信頼できるという割合はネパールでは約75%、ラオスでは約65%であった。ネパールにおいて、6-9年生では生徒あるいは近所の人を信頼できるという割合は50-60%と低かった。セルフエスティームについて、4-5年生ではネパールはラオスの子どもに比べて低いが、学年が上がるにつれて良好になる傾向を示した。社会性については、ネパール・ラオスとも80-90%の子どもが良好であった。問題がある場合に友だちと相談することはネパールでは90%を越えたが、ラオスの4-5年生では60-70%であった。

2) 1年間のチャイルドクラブの活動の成果と課題

中間調査の結果、学校保健活動においては、ラオスでは、学校保健教員が活動を理解し、校長が協力的な学校では、活動に関わる資料や記録表など、独自に作成・活用し、子どもクラブの活動

が積極的な学校と、校長の関心が低く、活動に消極的な学校に分かれた。活動の積極的な学校での課題は、担当教員の役割が大きく、子ども中心の活動になっていないこと明らかとなった。ネパールにおいても同様の傾向にあり、加えて、トリブバン大学の大学院生サポーターが自ら活動に参加するなど、子どもに主体性を委ねる活動となっていなかった。また、水が不足する学校ではドラム缶に清掃用の水を確保するなど、学校側の工夫による改善がみられたが、清掃の状態は不十分であり、改善の余地がみられた。インタビュー調査より、本活動を通じて、子ども達の意識、行動変容が確認されつつあり、また、本研究課題のソーシャルキャピタルに関する、人間関係性の向上に言及があった。また、児童生徒はトイレの清潔が課題であると指摘しており、教師が考えるゴミの問題とは乖離があることが明らかとなった。

以上の結果に基づき、講習会では、年次計画の作成や活動の方法などについて児童生徒と教員と一緒に活動するワークショップとし、活動の主体や責任を子どもに任せ子ども間のネットワークを強化すること、一つ一つの活動に担当教員を割り当て、教員全員が一つの活動の管理をするような制度の変更を求めた。また、全てのプロジェクト学校の視察し、現状把握を行った。学校保健活動の実施に関する認識において、ベースライン調査より中間調査のほうが数%低下したものが多かった。これは、初年度はYes傾向のために、回答率が高かったが、中間評価では、活動の実態により近づいた為に低下したと推測した。なお、ネパールにおいては、トイレ後の手洗い率が向上しており、これは、家庭から石けんの提供を求め、トイレに設置するようになったためであると推測される。また、ゴミの分別収集も改善しており、ゴミの収集、分別は活動の成果がすぐに現れ、最も取り組みやすい活動であったことが推測される。ソーシャルキャピタルに関する質問では、友人関係、学校の先生との関係ともベースライン調査より大きく改善した。

3) 2年間のチャイルドクラブの活動の成果と課題

最終調査の結果、歯磨き習慣、学校安全の状態が向上した。また身長や体重の測定を行うことで、自己の体格認識が向上し、視力検査を実施によって、自己の視力を正しく認識するようになった。ネパールではトイレの後の手洗い率が向上した。ラオスではトイレをきれいに使うという回答率が向上した。しかし、トイレや手洗いの水が十分ではないと回答する率が著しく向上した。実際には、トイレを非常に熱心に掃除しており、衛生状態は著しく向上したといえる。そのため、清掃のために水を大量に使うことが原因である可能性があると同時に、きれいに使うと意識した場合に水の分量が不十分であるという認識となった可能性が推測される。ソーシャルキャピタルに関して、友人関係、学校の先生との関係ともは前年より若干低下したが、ベースライン調査より大きく改善した傾向が継続した。これに関わりインタビュー調査から新たな問題として、チャイルドクラブのメンバーとして活動している子ども達が積極的に活動している反面、それ以外の子どもの間に意識の乖離が存在し、活動に協力的でない者がいることが明らかとなった。また、出席簿の三年間の確認では、特にラオスにおいて、プログラムの開始前に比較して、欠席者がほぼ半減する傾向がみられた。学校の担当者は1年目と比較して、2年目のほうが子ども達が積極的に活動に参加するようになり、先生が管理する側になることで、負担感が少なく、持続的に活動できるようになったとの回答があった。

以上の様にチャイルドクラブの活動により、学校保健活動が自立的に実施でき、活動の有効性が示された。同時に、チャイルド・ヘルス・クラブに所属しない子どもが、学校保健活動に興味を持たず、非協力的であること、保護者の伝統的な意識と活動の意義にずれが生じていること、予算確保など、学校経営者の努力が課題として残った。加えて、活動の評価を客観的に評価する尺度が存在せず、活動の良い点、改善点が把握できないことが今後の課題となることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 17件）

1. 発表者名 国土将平, 友川幸, 佐川哲也, 中野貴博, 朝倉隆司, 小磯透, 上田恵子
2. 発表標題 ネパール・ラオスにおける児童生徒の学校保健活動の認識の構造と其の変化子ども クラブを活用した学校保健活動
3. 学会等名 日本学校保健学会第66回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 V. Souvanxay, V. Bouasangthong, N. Keosada, S.Soukhavong, K.Thalangsy, S. Kokudo, T. Sagawa, T. Koiso, T. Nakano, T. Asakura, S. Tomokawa, H. Suzuki, K. Ueda
2. 発表標題 Initial Implementation of Child Health Club in Lao PDR
3. 学会等名 The 13th National Health Research Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kokudo, S., Sagawa, T., Nakano, T., Ueda, K., Devkota, B., Adhikar, K., Acharya, U.
2. 発表標題 Growth standards of Brahman/Chhetri and Newar/Janajati in Nepal
3. 学会等名 The 60th Anniversary SSHB Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ueda, K., Kokudo, S., Devkota, B., Nakano, T., Sagawa, T
2. 発表標題 Foot growth characteristics of Nepale major ethnic group's 1272 children aged 5-16 years
3. 学会等名 24th Annual ECSS Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 N. Keosada, T. Asakura, S. Tomokawa, V. Bouasangthong, V. Souvanxay, P. Navamal, C.Xaphakdy, K.Kanyasan, R.Watanabe, K. Miyake, S.Kokudo, T.Koiso, K.Nagata, A.Morozumi, H. Suzuki, S.Iwai, K. Ueda, S.Sano, K.Thalangsy, S. Soukhavong, K. Moji
2. 発表標題 Progression reports for development sustainable dissemination system on Ecohealth education in teacher training colleges in Lao PDR
3. 学会等名 The 13th National Health Research Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shohei Kokudo
2. 発表標題 Child Health Club, beyond the physical support of school health material
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sithane Soukhavong and Vannasouk Bouasangthong
2. 発表標題 Ecohealth activities in Lao
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Vanthala Souvanxay
2. 発表標題 Initial Implementation of Child Health Club in Lao PDR
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bhimsen Devkota
2. 発表標題 Child Health Activities in Nepal
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nani Ram Sanjel
2. 発表標題 CHC activities and the barrier at Shree Saraswoti Higher Secondary School
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sudha Ghimire
2. 発表標題 Support system by Tribhuvan University staff on CHC activities
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiko Ueda
2. 発表標題 Recognition of Child Health Clubs Activities in Nepal and Lao PDR
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takahiro Nakano
2. 発表標題 Overview of effect of CHC activities by three times survey data. - Focused on social capital and school situation-
3. 学会等名 International Symposium, Promotion of child health club, participation of children in school health activities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 國土将平, 佐川哲也, 中野貴博, 友川幸, 朝倉隆司, 小磯透, Devkota B, Adhikari, K, Keosada,N, Souvanhxay,V, Bouasangthong, S
2. 発表標題 ネパールとラオスの子ども達の自覚症状と学校保健活動の認識, チャイルド・ヘルス・クラブ (CHC) を活用した学校保健活動のベースライン調査の結果から
3. 学会等名 第83回日本健康学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 國土将平, 佐川哲也, 中野貴博, 友川幸, 朝倉隆司, 小磯透, Devkota B, Adhikari, K, Keosada,N, Souvanhxay,V, Bouasangthong, S
2. 発表標題 ネパール・ラオスにおける子ども保健クラブを活用した学校保健活動の展開前の児童・生徒のソーシャル・キャピタルの認識
3. 学会等名 第33回日本国際保健医療学会学術大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 國土将平
2. 発表標題 南・東南アジアにおける発育発達調査より国際比較の意義を考える
3. 学会等名 日本体育学会第69回大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名	Asakura T, Tomokawa S, Keosada N, Souvanhxay V, Bouasangthong V, Navamal P, Xaphakdy C, Watanabe R, Kokudo S, Koiso T, Miyake K, Nishi M, Hasumi J, Nagata N, Morozumi A, Suzuki H, Chatouphonexay A, Moji K
2. 発表標題	Progression reports of development of ecohealth education in teacher training institutions in Lao PDR - Implementation Strategy for ecohealth education dissemination
3. 学会等名	11th National Health Research Forum, Vientiane, Lao PDR (国際学会)
4. 発表年	2018年

1. 発表者名	國土将平、佐川哲也、中野貴博、小磯透、友川幸、朝倉隆司
2. 発表標題	ネパールとラオスにおける学校保健に関わるソーシャル・キャピタルの現状と課題
3. 学会等名	日本学校保健学会第64回大会
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	國土将平
2. 発表標題	子どもの主体的活動による学校健康診断と発育・栄養評価
3. 学会等名	グローバルヘルス合同学会2017 (招待講演)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名	Kokudo, S., Ohsawa, S., Sagawa, T., Nakano, T., Tomokawa, S., Asakura, T.
2. 発表標題	Integration of growth standards of four Asian countries: Thailand, Laos, Myanmar and Nepal
3. 学会等名	2017 Society for the Study of Human Biology (SSHB) Symposium (国際学会)
4. 発表年	2017年

1. 発表者名 Miyake, K., Tomokawa, S., Asakura, T.
2. 発表標題 Preliminary research on school-based Noncommunicable diseases (NCDs) controls and preventive education in Laos - Special focus on nutritional and physical activities in school -
3. 学会等名 National Health Research Forum, Vientiane, Lao PDR (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Asakura T, Tomokawa S, Keosada N, Souvanhxyay V, Bouasangthong V, Navamal P, Xaphakdy C, Watanabe R, Kokudo S , et. al.
2. 発表標題 Progression reports of development of Ecohealth education in teacher training institutions in Lao PDR- Implementation Strategy for ecohealth education dissemination
3. 学会等名 National Health Research Forum, Vientiane, Lao PDR (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	友川 幸 (Tomokawa Sachi) (30551733)	信州大学・学術研究院教育学系・准教授 (13601)	
研究分担者	佐川 哲也 (Sagawa Tetsuya) (70240992)	金沢大学・人間科学系・教授 (13301)	
研究分担者	中野 貴博 (Nakano Takahiro) (50422209)	名古屋学院大学・スポーツ健康学部・准教授 (33912)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	朝倉 隆司 (Asakura Takashi) (00183731)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究 協力者	上田 恵子 (Ueda Keiko) (70781467)	畿央大学・教育学部・准教授 (34605)	
研究 協力者	小磯 透 (Koito Toru)	中京大学・スポーツ科学部・教授 (33908)	
研究 協力者	デブコタ ビムセン (Devkota Bhimsen)	トリバン大学・教育学部・教授	
研究 協力者	ケオサダ ンゴイ (Keosada Ngouay)	ラオス国立大学・教育学部・前准教授	
研究 協力者	アチャヤ ウシャ (Acharya Usha)	ネパールオープン大学・講師	
研究 協力者	アディカリ ケマラジ (Adhikari Kemalaji)	トリバン大学・教育学部・講師	
研究 協力者	ソウバンサイ ワンタラ (Souvanhaxay Vanthala)	ラオス国立大学・教育学部・講師	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	ボウアサントン ワナスック (Bouasangthong Vannasouk)	ラオス国立大学・教育学部・講師	
研究 協力者	ケッサナー カンヤサン (Kethsana Kanyasan)	ラオス国立大学・教育学部・講師	
研究 協力者	ソウカボン シタン (Soukhavong Sithane)	ラオス国立大学・教育学部・副学部長	